

# 助成年度：平成4年度

[所属] 九州大学 工学部

[役職] 教授

[氏名] 代表者 井村 秀文 (他計3名)

[課題]

## 都市生活におけるエネルギーの役割と

## 地球環境調和型ライフスタイルの実現方法に関する実証的研究

[内容]

地球温暖化の防止のために、エネルギー、とくに化石燃料の消費をいかに抑制するかが全人類にとっての重要な課題となり、市民1人1人の果たす役割の重要性が認識され始めている。本研究では、財・サービスの最終需要者である市民の生活に着目し、生活の中におけるエネルギーの役割を実証的に分析する。さらに、生活におけるエネルギー効率改善のために果たし得る市民の生活スタイルと技術の役割を分析する。これらの研究を通じて、個々の市民の生活スタイルの変化が、地球環境保全にどれだけの意味と役割を有するのかを具体的に提示する。

本研究では、(1)都市における市民の生活行動とエネルギーの役割に関する調査、および(2)地球環境保全型ライフスタイルの実現方法に関する分析、(3)地球温暖化防止のための地域行動の提案、について検討した。

まず、地球環境問題に対して市民がどのような意識をもち、行動しているのかを明らかにするために、福岡県、久留米市において質問票調査を行った。調査は、生活者の立場から地球環境保全に対してどの程度の責任を感じているのか、どのような役割を果たすべきと考えているか等を問うもので、福岡市及び久留米市においてそれぞれ20歳以上の市民約2000名を対象に実施した。全体の回収率は、福岡県39.1%、久留米市34.9%であった。

また、都市市民の日常生活の中でエネルギーが具体的にどのような働きをしているのかを明らかにするために、市民の生活行動についての質問調査票を福岡市市民(市が制定している環境モニター約100名)を対照に実施した。

地球環境問題の重要性について、「世界的な問題の中で最も積極的に取り組むべき問題である」とする人が福岡市69.2%、久留米市69.3%おり、その関心の高さが分かる。また、地球環境問題や一般的な環境問題の分野別の関心度(3つまで選択)では、オゾン層の破壊(同市合計で60.0%)、ゴミ問題・資源リサイクル(同53.0%)、地球の温暖化(同31.8%)といったものが高かった。生活の利便性と環境保全との関係では、「生活の利便性を優先させる」という人が13.1%、「環境や自然の保護を優先させる」という人が83.0%であった。「生活の中で環境に負担をかけていると感じることがあるか」との問に対しては、「いつもそう感じている」という回答が年齢が高くなるほど多かった。一方、消費行動(電気や自動車の利用、製品の選択・購買等)の実態では、「電気を少し無駄使いしている」と思っている人が、両市合計で58.1%いる。また、自動車をいつも利用している人が、同じく36.8%おり、意識とはうらはらに日常生活の現実では利便性を優先している。これらの環境問題の解決のための市民の役割では、「自分も何か実効すべき」46.1%、「何をすればよいか分からない」34.4%、「自分一人の努力ではどうしようもない」3.8%、「企業がもっと対策を行うべき」10.3%であった。具体的な解決策としては、行政や企業に対する要望(環境にやさしい製品の開発・PR活動、廃棄製品の回収・処分等)が高かった。

以上のことから、市民の環境問題に関する意識と行動の乖離が見られ、この乖離を解消するためには、環境保全型の生活を保障するような社会的基盤整備がなされること、製品の供給側での市場開発戦略の見直し

を求めることも不可欠であることが分かった。

総じて言えば、環境に対する人々の意識は高いが、行動はまだまだである。ここで言う言動の範疇には、環境保全にとって好ましい商品を選んで買うとか、そのために通常商品よりも高いコストを支払うといったことも含まれる。こうした行動は、従来のな経済合理主義からは生まれてこないものである。地球環境時代の新しい消費者の倫理、美意識といったものが今誕生しようとしているのかもしれない。